

上田仮説サークルニュース		12月例会	2017.12号
編集責任 遠藤 裕		発行2018.1.27	
〒383-0041	中野市岩船426-3	サンガーデン中野B-G	TEL0269-23-2847 携帯090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL026-227-8555

12月16日(土) 上田市中央公民館 3F第1・第2学習室
午後3:00~6:00



参加者数6名
資料総ページ173ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 増田伸夫さん, 渡辺規夫さん, 大塚浩文さん
田中浩寿さん, 遠藤裕

はじめに 12月例会の参加者は6名。

レポートは、渡辺さんから5本、柳沢さんから12本(新聞記事の紹介は1本にまとめました)、増田さんから1本。合計は18本。総ページ数は123ページ。

渡辺さんは、仮説実験授業関係のレポートを中心に発表。

柳沢さんは「読書メモ」にはじまり受験指導に参考になる資料、社会情勢を知るブログや新聞の記事を紹介。

増田さんは、『知っているようで実は知らない世界の宗教』(池上彰他著)を設問形式で紹介してくれ、日本の仏教や神道を知る上で大変参考になりました。

今回もたくさんの資料発表があり、充実したサークルとなりました。終了後の忘年会の関係もあり、いつもよりは早い時間に終わりましたが。

「祥園」で忘年会。7名参加。北村さんご夫妻は忘年会から参加。

1. 発表資料

① サークルニュース 11月例会 遠藤 裕 (16ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 10月例会 遠藤 裕 (15ペ)
- ② 《不思議な石 石灰石》の授業アンケート 渡辺規夫さん (8ペ)
- ③ 「[原典翻訳] 落下運動ーガリレイ力学のなりたちー」を読む2 渡辺規夫さん (10ペ)
- ④ 松原舜氏の「量子力学を理解するには何をすればよいか」を読んで 渡辺規夫さん (1ペ)
- ⑤ 校長講話(平成29年度 2学期始業式) 田中浩寿さん (2ペ)
- ⑥ ある旅行の記録 柳沢克央さん (10ペ)

ー「こだわり」を捨てて「リミッタ」外す旅ー

- ⑦ 島地勝彦著『愛すべきあつかましさ』より 柳沢克央さん (9 ペ)
- ⑧ 『愛すべきあつかましさ』および『図解 超・シンプル仕事術』を読んだの感想
柳沢克央さん (12 ペ)
- ⑨ 紹介：超一流のプレゼン, その秘密は「映像化」 柳沢克央さん (2 ペ)
- ⑩ 紹介：出口治明氏「メシ・風呂・寝る」から「人・本・旅」へ 柳沢克央さん (8 ペ)
- ⑪ 紹介 朝日新聞「声」 日本語なまりの英語に拍手が 柳沢克央さん (1 ペ)
- ⑫ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん (5 ペ)
- ⑬ 紹介 エンスタナビ ミスが点数左右 一定時間を演習に 柳沢克央さん (1 ペ)
- ⑭ 「アンビグラム」を紹介しませう 柳沢克央さん (2 ペ)
- ⑮ 紹介 篠高 3 学年 進路通信 柳沢克央さん (1 ペ)
- ⑯ ブログ「内田樹の研究室」より紹介 大学教育は生き延びられるのか？ 柳沢克央さん (16 ペ)
- ⑰ 紹介 ナイ氏「トランプ再選はない」, アーミテージ氏「北朝鮮問題, 外交解決は可能」
柳沢克央さん (2 ペ)
- ⑱ 入学試験の矛盾論 (メモ) 柳沢克央さん (1 ペ)
- ⑲ メールやりとの紹介 柳沢克央さん (2 ペ)
- ⑳ 読書メモ 2017 年 11 月号 柳沢克央さん (28 ペ)
- 山田剛史/林創共著『大学生のためのリサーチリテラシー入門
—研究のための 8 つのカー—』(ミネルヴァ書房) ほか
- ㉑ ビー玉で作る結晶模型 高見沢一男さん (4 ペ)
- ㉒ <今月の本紹介 22> 増田伸夫さん (24 ペ)
[要約] : 死を弔うことに特化してしまった日本の仏教
- ㉓ <信州イスラーム世界勉強会⑤> 増田伸夫さん (4 ペ) 」
- ㉔ 山路さんからの返事 増田伸夫さん (1 ペ) 」

② ボンテン分子模型による化学反応式の導入 渡辺規夫さん (10 ペ)

専門学校 1 年生の《不思議な石 石灰石》の授業で、扱う化学反応式の理解を改善させる手立ての研究。

1. 化学反応式の理解
2. 2016 年度の実態
3. 2017 年度の取り組み
4. 2017 年度の成果 まとめ
5. アンケート結果の分析
 1. ボンテン分子模型の使用が役立ったか
 2. 化学反応式の理解

授業の感想文

授業評価(昨年度との比較)

6. まとめ

化学反応を《不思議な石 石灰石》で教えることができる。

化学反応式の導入に、ボンテン分子模型が有効である。

分子模型から化学式への移行は時間をかける必要がある。

付記

ドルトンは化学記号を●○◎などで表した。そして粘土で分子模型（ドルトンの考えでは原子模型）をつくり、それをつけたりはなしたりして化学反応について考察した。学生がボンテン分子模型をいじって化学反応について考えたのは、ドルトンと同じことをやっているのである。

ベルセリウスは原子記号をアルファベットで表すこと提唱した。ドルトンはそれに反対した。原子を文字で表すと、それが原子であることがわからないというのである。「化学式が出てくるとわからなくなる」という学生は大科学者ドルトンと同じ考えなのである。科学史の研究をもとに考えてみれば化学式を簡単なことであるかの如く教えてはならないということがわかるのではないだろうか。

生徒さんの〈授業の感想〉より

★実験があつたり、分子模型があつたりで、実際にどういう変化をするかを見ることができたので、わかりやすかったです。

★何度も繰り返しますが、化学反応式を実際にもものをつかって考えることを今までしてこなかったのも、ものを使ってイメージすることは、とても理解するのに役立ちました。

★自分の知らないことがまだまだたくさんあって、自然の中で目の見えない所で、化学変化が今もずっと続いていることに興味深いなと思いました。

★化学反応式は苦手な分野でしたが、ボンテン分子模型や分子模型を見てやると、とてもわかりやすくて、今回は苦手になりませんでした。先生、ありがとうございます！

(ボンテンを使って実際に自分で分子を作ってみる。この経験が大切なようです。「化学反応を《不思議な石 石灰石》で教えることができる」という渡辺さんの発見はすばらしいです。 エドワ)

③ 教科「数理」の実施とその成果に関する考察 渡辺規夫さん（8ページ）

要請を受けた「算数の授業」の考察。

1. 算数の授業の要請
2. 理数の授業の方針
3. 数理の授業の実施結果
4. 結論 割合について大部分の学生は理解できた。

5. 授業者の意見と感想

割合について理解させるという点で成果はあったが徒労感の多い授業だった。約半数の学生にとってはわかっていることの繰り返しのように感じられ、その一方難しいと感じた学生もいたようだ。授業アンケートをとることはできなかった。わからない学生は「日本語の文章から立式ができない」「何がもとにする量かを判断できない」からできないのである。これは数理という新たな教科で教えることではなく、他の授業の中で教えることで十分対応できると思う。よって数理という教科で算数を教えるという試みは今年度のみで終わりにした方がよいというのがやってみての意見である。

数理という教科を数量的な見方を教える授業として改めて位置づけるのであれば、やり方によっては成果を期待できよう。

(算数は、小学校のときあまり意識せずに習いました。どうしてそうなるのかとか考え出すと非常に難しいですね。割合計算などはあまり考えずに、反射的に計算できた方が良いのかもかもしれません。

エト^り)

④ 子ども向け冬季講座 わくわく科学教室《びりりん》 渡辺規夫さん (13ペ)

「わくわく科学教室」でおこなった《びりりん》の講座アンケート結果。

わくわく科学教室《びりりん》はいかがでしたか。

「5とてもたのしかった」「4たのしかった」が全体の84%で、とてもたのしかった様子がうかがえます。「来年度も参加したいと思いますか」の質問に、「参加したい」人は82% (28/34)。

<参加者の感想より>

◆おねえさん役でとても楽しく、勉強ができました。子どもたちがたくさん実験できるとさらに楽しいです!!手をつないだ実験がとても楽しかったです!!また、よろしくお願いします。

◆自分も実験に参加できて、初めてビリッを感じて感動しました。大人にとっても子どもにとってもとってもいい講座です。とっても楽しめました。

◆百人おどしでどきどきしていたけど、あまりいたくなかったのでびつくりした。

◆わくわく科学教室はとてもたのしかったです。ドライアイスの実験とはちがくとてもたのしかったしべん強にもなりました。改めてしるこがあったので、楽しかったです。また、学校の友達にも「びりりんつてやつがあったんだよ」とはなしてみたいです。ありがとうございました。手品もおもしろくてびつくりしました。

◆せいでんきシャワーがたのしかった。(小1)

- ◆最初の電気の実験がおもしろかった。黒い玉がういてすごかった。ひらひらくんがういてすごかった。(小6)
- ◆でんきが見えないのに見えるのはびっくりした。(小1)
- ◆最初にやったやつがおもしろかった。(小4)
- ◆ひらひらくんがひらいたりとじたりした。(小2)
- ◆せいでんきにいろいろなひみつがあるとはしらなかった。(小3)
- ◆みんなで手をつないでどリッときたのがおもしろかったです。(小3)
- ◆科学と言うととても難しいイメージですが、実験を通して見ることで、とても楽しく、また興味を持って参加できました。(保護者)
- ◆お父さんの頭につけたひらひらくんが開いたりとじたりしていておもしろかった。(小4)

(小学生も感想を書いてくれていてすごいです。 エドワ)

⑤ 紹介 科学史学会でシンポジウムやります 渡辺規夫さん (6ペ)

科学史学会で「仮説実験授業に関する」シンポジウムを開催。

多久和俊明さん(仮説会館/板倉研究室)の試み。板倉さんが科学史学会でやろうとしていたこと、やりたかったことを一つずつ実現していきたいと考え計画。テーマは素案として「仮説実験授業と仮説実験的認識論」。

2018年5月26日(土)か27日(日)

「シンポジウム」「2時間半の枠」

○「仮説実験授業と仮説実験的認識論」ガイドンス(仮題)

多久和俊明

○「ガリレオ力学と仮説実験授業」(仮題)

渡辺規夫

○「ひろがる仮説実験授業」(仮題)

宮地祐司

○「大学教育での仮説実験授業」(仮題)

舟橋春彦

(科学史学会でのシンポジウム。科学史学会の会員でなくても参加できるそうです。 エドワ)

⑥ 板倉講演音源 デジタル化中間報告 2017年12月16日 渡辺規夫さん (4ペ)

渡辺さんが進めている板倉さんの講演テープのデジタル化の中間報告。

板倉さんの講演のテープのデジタル化を進めています。わが家もこのままではゴミ屋敷化しかねないので、ものの整理を始めています。デジタル化して音源を保存したらそ

のテープは順次処分しています。

テープを提供してくれた方々に感謝申し上げます。

デジタル化の利点

- ・空間占拠が少ない。　・コピー、転送が簡単　・録音を文字に起こすことが容易
- ・劣化がない。

今のところ2つのハードディスクに保存しています。ただし、ハードディスクも耐久年数が10年以下ということなので、絶えず別の保存媒体に保存しなおす必要がありそうです。

講演の音源だけでも膨大です。各フォルダーの中にはいくつものファイルが入っています。今後、この活用、提供の方法について考えていきたいと思います。

デジタル化して聞き直してみると、思いのほかその講演や板倉さんが言ったことを覚えていることに驚いています。

今後、この音源は重要な資料となるでしょう。

保存方法、活用方法について意見をいただけると幸いです。

(講演内容がデジタル化されると、活用範囲が広がりそうです。データが欲しいという方はかなりいるのではないのでしょうか。　エンドリ)

⑦ 読書メモ 2017年12月号

柳沢克央さん(20ページ)

出口治明著『座右の書「貞観政要」』(KADOKAWA・2017年)ほか

柳沢さんが読んだ本の紹介。

◇はじめに

先月号までの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

私物の「積ん読」本が増え「読書予定リスト」は以前にも増して充実しています。まだまだたくさん「課題図書」があります。年末年始休業中に向けた本選びの必要は、今のところ、ないものと思われまふ。幸せなことです。私の中を情報がスムーズに流れるように「消化吸収」と「結晶化」とを進めていく予定です。

今年の成果は色々ありますが、特に次の二点を記録しておきたいと思います。

①増田伸夫さんが「宗教関係の本も守備範囲にちょっとだけ加えてみて」という宿題を出してくれて、苦しくない範囲でこれに乗ってみたお陰で、視野が拡大した。

②出口治明さん、島地勝彦さんの警咳に接することができた。

本当に良かったと思います。上田仮説サークルの皆さん、いつもおつきあいいただき、ほんとうにありがとうございます。来年も「読書メモ」を続けます。どうぞよろしく願います。

◇読書記録または読書メモ（順不同）

- ◎武田科学振興財団編『若き研究者へ贈る言葉』（非売品・2015刊）
- ◎出口治明著『座右の書「貞観政要」』（KADOKAWA・2017年）（私物）
- ◎山本七平編『帝王学 — 「貞観政要」の読み方』（日経ビジネス文庫・2001年）（私物）
- ◎呉兢著・守屋洋訳『貞観政要』（ちくま学芸文庫・2015年）（私物）
- ◎佐々木常夫著『ビジネスに活かす「孫子」』（PHP ビジネス新書・2017年）（私物）

◇次回以降の予告 18冊

◆まとめ・つぶやきなど ほんの一部掲載

○「公欠願い」を持ってきてくれた女子生徒のヘアースタイルが変わったことに気づいた。すかさず「髪の毛、切ったの？」と訊いたらニコニコして頷いてくれた。そのあとで暫し打ち解けて談笑タイム。憩いのひととき。でも、じつはこれが大澤孝征著『元検事が明かす「口の割らせ方」』（小学館新書・2016年）というちょっと物騒なタイトルの本に載っていたエピソードの応用だと気づかれてしまったら、ちょっと???だな〜（苦笑）。「変化に気づいてほっと一息」。化学研究室に来てくれる生徒たちは、本人たちは気づかないうちに、こうして常に私に緊張感のある「課題」を突きつけてくれるのである。〔12月4日（月）16：18〕

○予定の時刻となったので「本稿はこれで打ち留め印刷へ」。「最後までお読み下さりありがとう」。「午後すぐに次の仕事に取りかかる」。「来年も〈読書と思索〉楽しもう」。〔12月14日（木）14：25脱稿〕

（いつも読書メモをありがとうございます。冬休みに出口治明さんの書かれた本（共著）を読みました。来年度もよろしく願います。 エトワリ）

⑧ 「七転び八起き学」月報① 2018年1月 財布をなくした！ 柳沢克央さん（4ぺ）

財布をなくし見つかるまで時系列に取ったメモと「事故学」「失敗学」の考察。

S駅でなくした可能性が高く、JRの「お問い合わせセンター」に連絡したりしたが、見つからず。このとき、開高健作の「編集者マグナカルタ」の一節、「トラブルを歓迎せよ」を思い出し、「どういう結果になるにせよ、このことについて記録に残し、必要とする人に伝える事ができればいいんじゃないか、『話のネタ』ができたともいえる…などと、ちょっとだけ楽観的に考えることができる余裕が出てきた。時系列でメモを取

っていくことはこの時に思いついて、さっそく書き始めることに。」

D・カーネギー著『道は開ける』（創元社）を紹介した知人のネット書評には次のように書かれていた。

もし悩みの種を抱えているならば、ウィリス・H・キャリアの公式を使って、三つのことをやってみるべきだ。

1. 「起こりうる最悪の事態とは何か」と自問すること。
2. やむを得ない場合には、最悪の事態を受け入れる覚悟をすること。
3. それから落ち着いて最悪状況を好転させるよう努力すること。

夜、「JRお問い合わせセンター」に家から電話をかけてみると、しなの鉄道の運転士さんが車内で拾ってくれ、N駅忘れ物センターに届いているとのこと。翌日、「N駅忘れ物センター」で財布を受け取る。なくなったものも何もなく無事にもどることができた。

私のやりたいことは「失敗からの脱出のための方策」「失敗を未然に防ぐ予防の方策」に関すること。失敗事例はこれらを実現するために集めることが必要であるが、そのこと自体を目的にしても仕方がない。要するに「君子危うきに近寄らず」、「備えあれば憂いなし」、「転ばぬ先の杖」と「七転び八起き」をすればいいのではないか。「事故学」「失敗学」では、「運動」が十分に表されていないような気がする。その先を見越して考えるならば、これらは「七転び八起き」なのではないか。少なくとも私が現時点で考えてみたいのは、私たちのあるべき姿＝「七転び八起き」という運動形態なのである。

[まとめ]

- トラブルは時間を追って記録する
- 書くことで自分見つめて先を読む
- 「七転び八起き」目指して歩み出す

(柳沢さんの進めている「事故学」「失敗学」、今後の発展が楽しみです。 エトワリ)

⑨ ブログ紹介：イメージトレーニングで成功者に！

効果的な方法と叶うイメージのコツとは？ 柳沢克央さん（4ペ）

夢や目標を達成するために行われるイメージトレーニングの紹介。

<https://makuake-magazine.com/imagery-training-897>

Contents

- 1 いろんな分野で使われているイメージトレーニングとは？
- 2 なぜ潜在意識にイメージを擦り込むのか？ どういった効果があるのか？
- 3 効果的なイメトレのやり方とは？
 - 3.1 叶うイメージのコツとは？

4 毎日のイメトレで成功者の階段を駆け上がろう！

4.1 More from my site

◆紹介者のひとこと

柳沢克央 (信州・上田仮説サークル)

最近よく読む「自己啓発本」に願い事を叶えるための方法として「神社にお詣りする」ことや「先祖や尊敬する人の墓参りをする」ことが書かれていた。神仏を信じるかどうかは個人の自由であり、これから紹介する方法は一つの例であるということでお読みいただければよいと思う。

結論から言うと、私は「お詣り（お参り）することはとても有効だ」と思っている。神仏を信じているかと問われれば「信じているとも言えて、信じていないとも言える」ということである。

つまり、私は神仏や霊魂などは実在しないと思っている。ただ、自らの潜在意識を有効に働かせるための手段として「神仏が存在する」ことにしておいたほうが、私にとっては話がうまく進むようなのだ。だったら、これを潜在意識のためのレトリックとして活用するほうが何かと得だ。神社仏閣や墓は壮大な舞台装置としてのみ価値を持つのであり、じつは中身なんか何も無いに違いない。寺社詣でや墓参りで神仏や先祖に語りかける言葉は自分自身への語りかけに他ならない。その証拠に、尊敬する人の墓参りを勧める本（島地勝彦氏著書）には「できるだけ大きな声で朗々と、はっきりと語りかけるべし」とある。

これは多分、板倉聖宣さんが「超合理主義」と言っていることと同じだと思う。六曜の「友引」に本当に友を引きつける効果などあるはずもないが、友達と会うためのきっかけとして積極的に活用する。こうした考え方は、主体的唯物論とけっして矛盾しないはずだし、古人もこのことを全く知らないはずはないだろうと私は思っているのだが、どうだろうか。自らを信ずること、これを自信という。「生きるには適度な自信必要だ」「信じないゆえに信じる仏かな」〔2017年12月12日（火）午前10:00〕

（「具体的なイメージさえあれば、それにまつわる情報をどんどんキャッチできてしまうのです！」

という話は、《もし原》で原子・分子のイメージができれば、いろいろな情報がキャッチできるということに通じそうなお話です。 エンドリ)

⑩ センター化学 受験心得 11カ条 柳沢克央さん（2ペ）

柳沢さんがつくられた「センター化学」受験生の心得 11カ条の紹介。

人生の目標から具体的な受験上の心得まで。

（受験指導をされている先生方には大変参考になる「受験心得」です。 エンドリ)

⑪ 紹介 しっかりやれば防げる！

ミスを引き起こす五つの原因はこれ 柳沢克央さん（2 ペ）

中尾正之著『図解 仕事のミスが 99%なくなる思考法』（PHP・2016年）より紹介。

失敗の原因の分析 個人レベルの原因

- ① 無知によるミス → 学ばばよい
- ② 不注意によるミス → 時間に十分な余裕を持つ、面倒くさがらずに準備や用心をする
- ③ 手順の不遵守によるミス → ルールを壁に貼っておく
- ④ 誤判断によるミス → 自分で考え抜くしかない
- ⑤ 調査・検討不足によるミス → 実行する前に一呼吸して考える

失敗には必ず原因がある

しらなかったがゆえの失敗 → 知識を学ぶことで防ぐ！

決められたルールを守らなかったことによる失敗 → 決められた段取りを守る
ポイント **失敗の多くは、やるべきことをしっかりやっていたら防げる**

（経験からすると「十分な準備」をしていなかったときに失敗が多いような気がします。「仕事のミス」をなるべくしないように心掛けたいです。 エドワ）

⑫ 「周期表語呂合わせ」の例 柳沢克央さん（1 ペ）

周期表の元素を覚えるときの語呂合わせの紹介。

1 番から 30 番，族の覚え方が紹介されています。

（周期表の覚え方はいろいろ紹介されています。自分にあったものに出会えるといいですね。 エドワ）

⑬ 「東洋経済オンライン」記事より紹介

日本人は「軍事的常識」が著しく欠如している 柳沢克央さん（4 ペ）

— 「集団的自衛権」の理解もまちまち —

富澤暉氏の著書『軍事のリアル』について詳しく聞いた記事の紹介。

記者は東洋経済の塚田紀史氏。

現在の軍隊は「戦争の道具」ではなく、世界の繁栄と平和を守るための基盤だと話す元陸上幕僚長の富澤暉東洋学園大学名誉教授・理事。

◆紹介者のひとこと

前半（言葉の問題）と後半（米国の「世界戦略」等について）で話題が二つに分かれている。しかも、最後は結論がはっきりせず、「尻切れトンボ」感がある。おそらく、本を読んでほしいので誘導しているのだろう。

こうしたインタビュー形式の本の紹介は読みやすく、しかも新鮮だ。特にこの本を購

入する予定はないが、機会があったら読んでみたい。

言葉の問題はとても重要だ。2 ページにある「集団的自衛権の行使と正当防衛権に基づく行為はきちんと分けないといけない。規則・法律と、現場における行動とがあいまいな形のままだと、とんでもないことになりかねない」という記述について、私はいままで、よく認識していなかった。肝に銘じておきたい。

トランプ氏のことについては、一カ月以上前に、憂うべき現状を予測している記事を発見したので別に紹介する。「東洋経済オンライン」はなかなか良い情報を発信してくれていると思った。

[2017年12月11日(月)13

:40]

(軍隊にかわる「世界の繁栄と平和を守るための基盤」をつくり出せないかが人類の課題? エンドウ)

⑭ 「東洋経済オンライン」記事より紹介

日本人はまだトランプ大統領をなめている 柳沢克央さん(4ペ)

—3人の偉大な「お守り役」も手を焼いている—

ダニエル・スナイダー：スタンフォード大学教授の記事の紹介。

日本は世界から「絶縁」された状態にある。

1. 米国はいまや、激しく分裂している
2. トランプ大統領は歴史上最も不人気な大統領だ
共和党員は単なる共和党員になった
3. 米議会はもはやその機能を果たしていない
4. トランプ大統領の暴走を止められるかどうかわからない
5. トランプ大統領の精神状態

◆紹介者のひとこと

「現実がこの記事を追いかけて一カ月遅れでやってきた」という印象を与えてくれる記事。きょう、検索していて偶然、発見したもの。「トランプは田中康夫の焼き直し」という句は、結構いい線をいっているのかもしれない。それにしても、なんという皮肉な状況だろうか。また、現実がスタンリー・キューブリック監督作品のブラック・コメディ映画『博士の異常な愛情』（米英合作・1964年公開）（原題は『ストレンジラブ博士』）を追いかけてやってきた、ともいえるほど様々な点での「符合」を感じる。「魚は頭から腐る」というロシアの諺も見事に当てはまる。私たちが歴史に学ぶことはまだまだたくさんありそうだ。現在の「世界終末時計」は午後11時57分30秒。ノーベル平和賞を受賞したICANのメッセージが心に響く。 [2017年12月11日(月)14:35]

(トランプ大統領に「分別ある判断」を期待したいですが…。 エンドウ)

⑮ ブログ紹介 駅伝と商談会の関係 柳沢克央さん (4ペ)

駅伝で走った経験から、商談に向けての準備についての心得。(田中良介氏のブログから)
あなたがなかなか成約を勝ち取れない理由は、商品自体の問題ではなく、商談へ向けての準備が足りていないのかも...かもしれません。

田中良介 (アグリマーケティング株式会社 代表取締役)

◆紹介者のひとこと

「受験生の視点から見る」ことにより、「深読み」できる内容を持つ文章だと思ったので紹介することにしました。演習での間違いをそのままにしている人はいませんか。そのままだと、虫歯と同じで、決して「自然に治る」ことはありません。苦しいけれど、自分の欠点・未熟な点をハツキリと認識して、常に改善していくことがいま、あなたにとって必要なのです。「決戦だ眠れる獅子よ目を覚ませ」。他人の失敗を自分の身に起きたことのように受け止め、我が身を律することこそ、進歩への最短距離であると思うのですが、どうでしょうか。…「その間に目的を持ったヤツが着々と準備をしてる…」(清志郎『争いの河』より)「朝起きて鼓動ある身の有難さきょうもこれから勉強できる」。〔2017年12月4日(月)朝〕
(「準備が大切」なのですが、それがなかなかできない…。 エト㊦)

⑯ 紹介 MORGENN 柳沢克央さん (2ペ)

佐藤優氏への十代のころのインタビュー記事の紹介。

◆紹介者のひとこと

篠ノ井高校に無料で届けられている読書推進紙より紹介。高校生向けにこんなにクオリティの高い情報が無料で発信されているとは…すばらしい。全体的に興味深い内容だが、特に最新刊の紹介に力が入っている分、魅力的だと思った。良い本は問いかけ方によって深読みが可能だ。「本がそうであるならば、それを書いている人間だってそうであるはずだ」…これは深読みのしすぎ?ではないと信じたい私である。

(佐藤優さんはサークルでも話題になる方です。<強制的にやらされたことが逆に内在化するんだ>という言葉は印象的です。新刊『ゼロからわかる「世界の読み方」プーチン・トランプ・金正恩』という本も面白そうです。 エト㊦)

⑰ 新聞記事の紹介 柳沢克央さん (7ペ)

信濃毎日新聞、朝日新聞時記事の紹介。

信毎 12/7 ・坂城にワイナリー開設へ ・再配達を受け付け 締め切り繰り上げへ

・ヤマト 11月の宅配個数

朝日 12/13 ・定員減らす大学 将来増える傾向 ・大学の将来ビジョン対照的
・天声人語 ・先生、部活のやり過ぎはダメ

信毎 12/14 伊方3号機差し止め、斜面 ・規制委審査 司法が疑問符

(紹介されている記事にそれぞれ柳沢さんのコメントがあります。柳沢さんの関心も非常に幅広いです。 エトワカ)

⑩ 紹介 「酒飲みおしょうさん」 一硝酸編― 柳沢克央さん (4ペ)

矢沢也夫他『化学まんが周期表』(学研)(絶版)より「硝酸編」の紹介。
硝酸について解説のついたまんがです。

⑪ <今月の本紹介23>

増田伸夫さん(8ペ)

〔要約〕：余りにも暮らしに根づいてしまった仏教と神道

設問形式による本の紹介。

☆池上彰+「池上彰のニュースそうだったのか!!」スタッフ

『知っているようで実は知らない世界の宗教』

(S B 新書) 定価：本体 800 円 (税別)

(2017年10月15日 初版第1刷発行)

著者の池上彰は1950年、長野県生まれ。NHK退職後はフリージャーナリスト。著書に『世界を変えた10冊の本』(文藝春秋)、『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』(文春新書)など、共著に『新・戦争論』(文春新書)、『大世界史』(文春新書)など多数。

*

前回読んだ池上彰著『池上彰と考える、仏教って何ですか?』(飛鳥新社)は、「仏教もおもしろい。さすが池上彰だ」と思わせてくれた。そこで、もう少し池上彰の宗教関連の本を読んでみたくなった。

本書は、テレ朝系で放送した「池上彰が今こそ日本人に伝えたい、実はみんな知らない日本」(2015.2.9放送)と「池上彰のニュースそうだったのか!!」(2016.2.13~2017.8.12放送)のテレビ放送の内容から構成し、編集・加筆したものだ。今回も設問形式で本書の紹介を試みたい。

◇仏塔（ストゥーパ）	◇お寺と神社
◇仏塔→五重塔／卒塔婆	◇お寺／神社が一番多い都道府県
◇お盆の由来	◇一番数が多い理由
◇ナスとキュウリのお盆飾り	◇「神宮」／「大社」／「八幡宮」／「天満宮」…
◇送り火／精霊流し／灯籠流しと盆踊り	◇日本人の曖昧模糊とした宗教観
◇中国から先祖崇拝を取り入れた日本の仏教	◇神道の最高位
◇お地藏さん	◇天皇の公務以外の大事なお努め
◇木魚	◇宮中三殿（賢所／皇霊殿／神殿）

*

<一言で言えば>：暮らしに根づいてしまった仏教と神道

さて、この本の内容を一言でいえば「仏教と神道は、あまりにも私たちの暮らしに根づいてしまっている。だから、宗教的な行為をごく自然にやっけていて、わざわざ宗教と意識することがないのだ」ということになるだろうか。

*

<池上彰の庶民感覚>

本書は、テレビ放送で取り上げてきたテーマをまとめたものだ。だから「寺院は仏教の宗教施設、神社は神道の宗教施設という違いがあるのです」というような、極めて「丁寧な説明」から入っている。そこまで丁寧にしなくても…と思うのだが、客層に合わせているということか。

本書は世界三大宗教（キリスト教、イスラム教、仏教）と日本の宗教（仏教と神道）についての優れた宗教入門書となっている。今まで宗教について何の関心もなかった人にも安心して読んで貰える本である。私にとっては、日本の宗教（仏教と神道）のところが興味深かった（世界三大宗教については復習であった）。本書はテレビの放送内容をまとめたものということで、クイズ的で身近主義に走った感は否めないが、池上彰が「宗教に関して一般庶民がどんなことを知っていて、どんなことを知らないか」、それを真剣に知ろうとし、考えていることだけは伝わってきた。それは教育においても大事な視点だと思うのだ。（増田）

（仏教と神道、あまりにも身近すぎて、いろいろな行事でどうしてそんなことをするのかなんて考えてもみませんでした。とても分かりやすく書かれている本のようにです。 エドワ）

あとがき 明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。



年が明けて、天気予報では長野地域はかなり大雪になりそうな感じでしたが、現在のところ例年より雪は少なく安心してあります。サークルでの話題の影響も

あり、今年は本を読む時間を充実させたいなと思っています。冬休み中に『世界史としての日本史』（小学館新書 半藤一利×出口治明著）を読みました。日本が第二次世界大戦に突入していったのには、日露戦争での勝利ということも大きく影響していたようです。今年は教養を身につける年にしたいです。

現在の職場も8年。そろそろ転勤か…と気になっています。

(エンドウ)

[連絡] 会場の都合で、2月例会は第3土曜日の17日、第1会議室になります。

★ 今後の予定 ★	
1月	27日(土)
2月	17日(土)
3月	17日(土)